

第 72 回 “社会を明るくする運動” 中間報告

～犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ～

第 72 回目を迎えた“社会を明るくする運動”も、地域の皆様の御協力により、各事業を無事開催することができています。

今回は、強調月間（7月）に開催された事業を中心に、各事業の主幹である飯田地区保護司会の専門部から、事業の報告をいたします。

1 街頭啓発活動 [飯田地区保護司会・総務部]

7月1日の朝、飯田・鼎・桜町・伊那上郷駅前、主に高校生を対象に啓発活動を行いました。コロナ感染防止対策を講じながらの活動でしたが、地域の皆様に社会を明るくする運動についてPRでき、良いスタートを切ることができたと思います。

今年は登校時間に活動を行ったことで、より多くの方にPR出来ました。



2 内閣総理大臣メッセージ伝達式・公開ケース研究会 [飯田地区保護司会・研修部]

7月12日、上郷公民館にて「内閣総理大臣メッセージ伝達式」及び「公開ケース研究会」を開催しました。高陵中学校区の座光寺・上郷地区から84名の方に参加いただきました。



「内閣総理大臣メッセージ伝達式」では、社会を明るくする運動強調月間開始にあたり、内閣総理大臣からのメッセージが、飯田市長へ伝達されました。

続いて、昨年度の長野県作文コンテストで最優秀賞を受賞した桑原煌河さんに受賞作文「気づいてほしい、あなたの居場所」の朗読をしていただきました。

「公開ケース研究会」では、『好奇心から大麻を乱用してしまった少年』という事例を取り上げ、
1. なぜ少年は非行に陥ってしまったのか 2. 少年が立ち直るために、どのような対処をすることが望ましいか 3. 学校、地域社会の人々の役割は何か について5グループに分かれて話し合いました。参加者から「大麻に関する正しい知識が必要」「家庭内のコミュニケーションが大切」「作文に出てきた『居場所』が大事」など多くの意見が出され、更生保護活動や社会を明るくする運動への理解が深められたと感じます。



3 中学生対象講話会〔飯田地区保護司会・協力組織部〕

7月5日、旭ヶ丘中学校にて「中学生対象講話会」を行い、総勢628名の方にご参加いただきました。講師に、小林英樹先生（飯田市出身/舞台俳優）を招き、「Yes, and で心地いいコミュニケーション」というテーマで、人との良好な関係を築くコツのお話を聞きました。



- ◆ 会話は言葉のキャッチボール。良好な関係を築くには『Yes, and』が必要。可能性が広がる。
- ◆ 『Yes, bad』は、肯定するがマイナス思考の返事で会話が発展しない。
- ◆ 『No, bad』は相手を嫌いになってしまいそうで空しい気持ちになる。

一方的な講話でなく、生徒同士、先生同士の即興の寸劇を交えて楽しく学びました。

全校生徒が一堂に会し、一生懸命耳を傾けていました。

4 地区講演会〔飯田地区保護司会・広報部〕

7月20日、三穂公民館にて「地区講演会」を行いました。後藤正幸氏（前信濃教育会会長、前日本連合教育会会長）を講師に迎え「優しさと輝きのある人・社会」を演題にお話をいただきました。

講師自らが教育現場で経験した数々のエピソードを通して、人の真の優しさとはどのような心の持ちようや行動なのかを熱く語られました。

困っている人に対して、その人の身になって考え行動できる人を、家庭や学校、社会の中で育ていくことの大切さを考える良い機会になったと思われます。



当日は、三穂地区から62名の皆さんにご参加いただきました。

5 小中学生作文コンテスト〔飯田地区保護司会・協力組織部〕

毎年飯田市内の全小中学校のご協力のもと実施している作文コンテスト。本年度は計592点（小学生371点、中学生221点）の応募がありました。そのなかで特に優れた作品について、飯田市選考委員会（9月6日開催）から長野県選考委員会に推薦しました。

県での選考の結果が届くのは年明け以降の予定です。学校を通じて選考結果をお知らせするとともに、応募いただいた方全員に参加賞を、入賞された方にはさらに賞状等をお渡ししますので、楽しみに待っててください。

上記の事業はすべて皆さまから寄せられた「愛のはがき募金」により開催しています。
この他にも、更生保護ミニ集会や学校講演会等の開催費用や、更生保護や犯罪予防の
ための活動を行う市内団体の活動資金として活用させていただいています。
「愛のはがき募金」の募金総額は 3,033,627 円です（9/15 現在）。
皆さまのご協力に、心より感謝申し上げます。

社会を明るくする運動飯田市推進委員会 事務局（飯田市役所福祉課）

